

令和6年度は、このように
お金が使われました！



歳出を町民一人あたりでみると
総額 84 万 4,504 円 (前年比 +71,685 円)
※町民1人あたりの金額は、令和7年3月31日現在の
町の住民基本台帳人口1万2,136人で割ったものです。

民生費 使われたお金…26億8,216万円

高齢者に対する住民主体の通いの場への移動支援の実施、難聴の早期発見・早期対応の推進に取り組みました。また全年齢の保育料完全無償化および副食費の無償化を継続して実施し、子育て世帯への支援に取り組みました。そのほか、第2期健康と福祉の里構想に基づき、健康福祉センターを再整備するとともに、デジタルを駆使し、ソフト面からも一体的な推進を図っていくため調査を実施しました。



総務費 使われたお金…15億6,717万円

各分野における担い手不足に対応するため、マルチワーカーやU・Iターン希望移住者の受け皿となる地域人材ベースキャンプの設立・運営を支援しました。また、地域づくりのさらなる活性化と地域課題解決を図るため、集落支援員を増員し特色ある地域活動を行いました。そのほか、住民サービスの向上に向け、住民票の写し等のコンビニ交付、町が保有する地図情報のインターネット上での公開など、行政のデジタル化に取り組みました。



公債費 使われたお金…13億5,105万円

建設事業などを行うために借入れたお金の返済を行いました。

土木費 使われたお金…10億6,803万円

地域の安全確保や道路災害の防止対策として、町道危険箇所の改良工事を行いました。また、定住促進・転出抑制対策として、子育て・若者世帯の住環境の整備や住宅取得等に対する支援を行いました。そのほか、空き家の利活用に対する支援や危険空家等の解体に対する助成に取り組みました。

衛生費 使われたお金…9億9,555万円

母子保健事業として、新たに妊娠確定までの産婦人科受診料支援、産後1カ月健診費用助成等を実施しました。そのほか、地球温暖化防止の取組として、太陽光発電や木質バイオマス燃焼機器等の導入助成や断熱性能の高い住宅新築への支援を継続実施しました。



教育費 使われたお金…10億6,592万円

中学校体育館の床のグレードアップや断熱機能の向上等の改修、空調設備の導入を実施しました。また、荒砥高校支援として、高校魅力化コーディネーターの配置により小規模校ならではの魅力づくりを進めるとともに、新たに運転免許証取得に対する支援を実施しました。



農林水産業費 使われたお金…6億6,537万円

6次産業化の拠点となる施設整備に向け、施設の機能や設置する加工機器などの検討を行いました。また、新たに西横田尻地区水路改修事業に着手し、改修工事を実施しました。そのほか、有害鳥獣の駆除や新規狩猟者の免許取得支援、電気柵導入支援に加え、新たに不要果樹伐採支援を行いました。

消防費 使われたお金…4億4,865万円

地域防災マネージャーによる出前講座等を実施し、防災意識の向上や、地域防災力の強化に取り組みました。また、消防団ポンプ自動車の更新を行い消防力の向上を図りました。



商工費 使われたお金…2億4,076万円

飲食店の利用料金割引助成により消費需要の喚起を行うとともに、生活支援として地域応援券事業を行うなど物価高対策に取り組みました。また、ふるさと森林公園について、再整備に向けた基本構想と、その具現化に向けた基本設計を策定しました。



その他 使われたお金…1億6,425万円

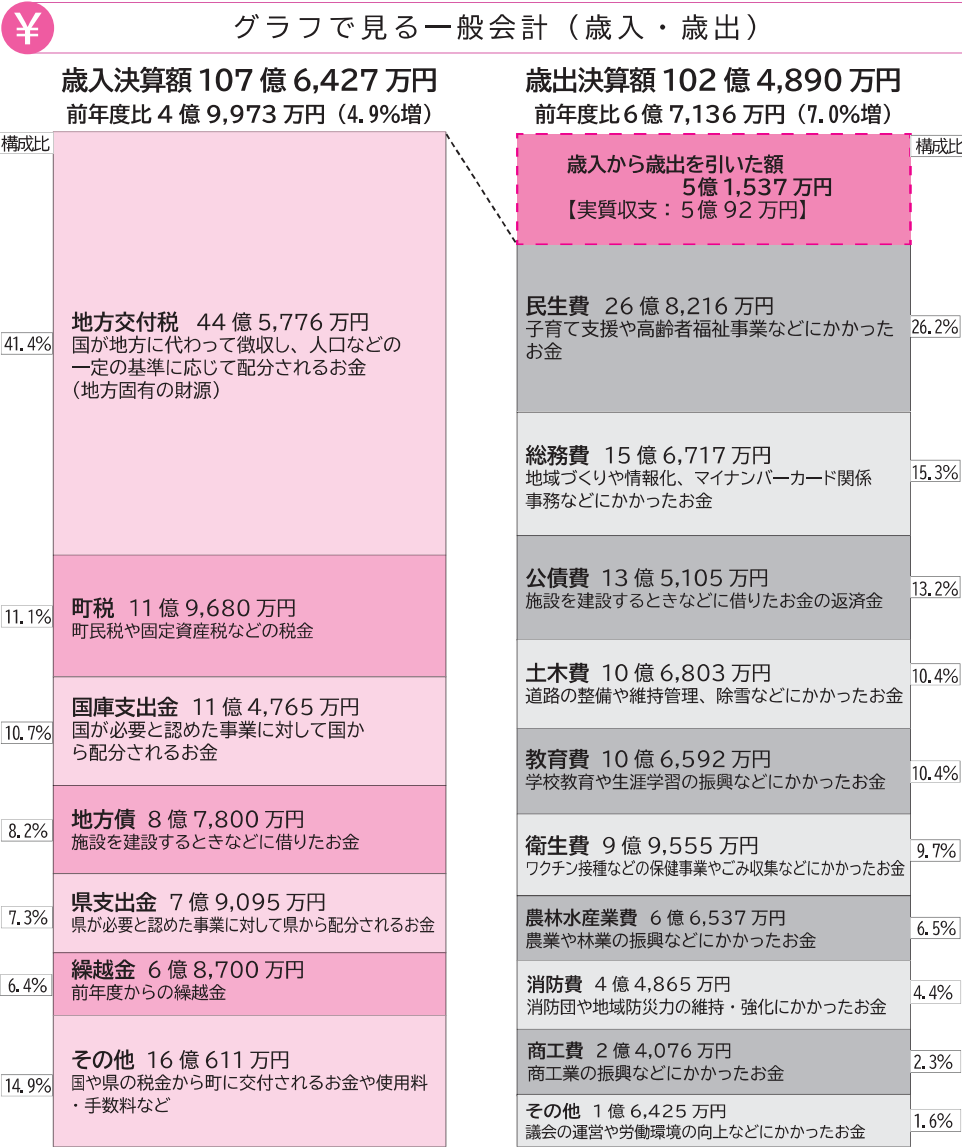
令和6年7月豪雨災害の復旧事業や議会運営に必要な経費等を支出しました。

白鷹町の決算概要報告



一般会計 歳入 107 億 6,427 万円 歳出 102 億 4,890 万円

一般会計の歳入決算額（税金など町へ入ってきたお金）は107億6,427万円で前年度に比べ、4億9,973万円（4.9%）増、歳出決算額（町が使ったお金）は102億4,890万円で前年度に比べ、6億7,136万円（7.0%）増となりました。歳入歳出差引は5億1,537万円、翌年度へ繰り越した事業に充てるべき財源を控除した実質収支は5億92万円となりました。



※地方財政状況調査による区分により集計しています。
※項目ごとに四捨五入しているため合計などが一致しないところがあります。



特別会計と公営企業会計

特別会計			
会計名	歳入	歳出	差引
十王財産区	307 万円	46 万円	261 万円
国民健康保険	13 億 2,192 万円	12 億 9,455 万円	2,737 万円
介護保険	16 億 9,108 万円	16 億 890 万円	8,218 万円
後期高齢者医療	2 億 21 万円	1 億 9,658 万円	364 万円

※公営企業会計における収益的収支は税抜表示としております。
※万円未満端数調整

公営企業会計			
事業名	歳入	歳出	差引
水道事業(収益的収支)	2 億 8,413 万円	2 億 8,167 万円	246 万円
水道事業(資本的収支)	1 億 2,434 万円	2 億 679 万円	▲ 8,244 万円
下水道事業(収益的収支)	5 億 7,471 万円	5 億 5,201 万円	2,271 万円
下水道事業(資本的収支)	1 億 1,264 万円	3 億 670 万円	▲ 1 億 9,406 万円
病院事業(収益的収支)	12 億 2,773 万円	12 億 840 万円	1,933 万円
病院事業(資本的収支)	7,635 万円	1 億 8,185 万円	▲ 1 億 550 万円

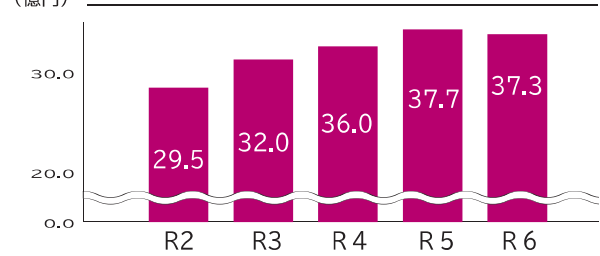
財政状況について

積立基金の残高

基金とは、貯金にあたるものです。大規模な災害等に備えて積み立てる「財政調整基金」や公共施設の整備等へ活用するために備えた「公共施設整備基金」などがあります。

令和6年度基金残高	37億3,295万円
財政調整基金	10億4,814万円
減債基金	9 億1,436万円
公共施設整備基金	9 億1,849万円
福祉振興基金	1 億2,628万円
その他の基金	7 億2,569万円

●基金残高の推移



健全化判断比率の4つの指標は良好

自治体の財政状況を判断する「健全化判断比率」はすべて早期健全化基準を下回っており良好な状態です。引き続き健全な財政運営に取り組んでいきます。

指標	白鷹町	早期健全化基準(※)
実質赤字比率 一般会計を中心とした赤字の割合	赤字なし	14.75%
連結実質赤字比率 一般会計、特別会計、公営企業会計を合わせた赤字の割合	赤字なし	19.75%
実質公債費比率 年間の借金返済額の割合	12.6%	25.0%
将来負担比率 将来負担となる借金の割合	10.6%	350.0%

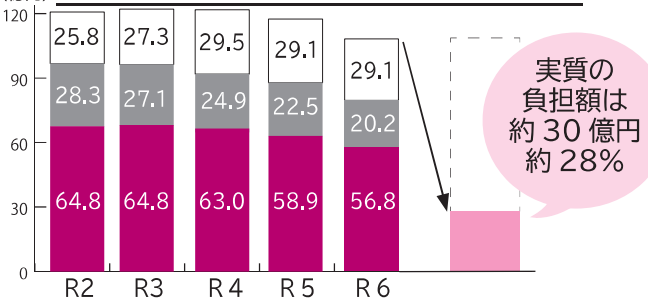
(※) この数値を上回ると健全化への取組が必要になります。

町債残高の推移と実質の負担額

町債とは町の借金のことで、令和6年度末の町債残高は106 億 2,097 万円となりました。借金の返済金に対して地方交付税により国から配分される収入を差し引いた実質の負担額は約 30 億円(約 28%)となりました。

令和6年度町債残高	106億2,097万円
過疎対策事業債	56億8,127万円
臨時財政対策債	20億2,897万円
その他町債	29億1,074万円

●町債残高の推移と実質の負担額



公営企業における資金不足比率はなし

水道、下水道、町立病院の全会計について、資金不足比率は発生していないため比率はありません。

■ 過疎対策事業債
■ 臨時財政対策債
■ 実質負担見込額
□ その他町債

※過疎対策事業債：過疎地域に指定された団体が発行できる地方債。返済金の7割が地方交付税により措置される。
※臨時財政対策債：国の財源不足を補うための地方債。返済金の全額が地方交付税により措置される。